

関係各位

長崎市立東長崎中学校  
女子バスケットボール部  
顧問 中田富士男・和田直子  
コーチ 山崎純男

令和5年度長崎市中学校総合体育大会バスケットボール競技新人大会 結果報告

- 1 場 所 小島中学校
- 2 期 間 令和5年12月09日（土）・10日（日）・16日（土）
- 3 試合結果 別記
- 4 詳 細

選手プロフィール				初日第1試合					淵															備考					
#	名前	年	身長	出身	S	時間	FG	FT	点	P	S	時間	FG	FT	点	P	S	時間	FG	FT	点	P	S	時間	FG	FT	点	P	Note
1	南	②	151	矢上小学校																									
2	大水	②	153	矢上小学校	S	21	3/5	1/4	8	2																			
3	藤川	②	151	矢上小学校																									
4	松山	②	157	矢上小学校	S	28	2/9	0/0	4	2																			
5	松井	②	163	高城台小学校	S	23	4/10	5/6	13	0																			
6	濱内	②	152	高城台小学校																									
7	平石	②	153	高城台小学校																									
8	黒川	①	156	古賀小学校	S	22	1/3	0/0	2																				
9	林	②	164	高城台小学校		7	2/3	0/0	4																				
10	松尾	①	150	矢上小学校		12	0/0	0/0	0	0																			
11	袋良	①	152	高城台小学校		12	1/3	0/0	2	0																			
12	溝上	①	150	古賀小学校	S	8	0/3	0/0	0	0																			
13	吉田	①	154	高城台小学校		27	6/12	0/0	12	1																			
14	辻山	①	160	高城台小学校																									
15	御手洗	②	155	古賀小学校																									
16	楠	②	151	古賀小学校																									
17	御手洗	①	152	古賀小学校																									
18	瀬川	②	164	高城台小学校																									
左 : 東長崎					1P	160	0		17		0					0													
右 : 相手チーム					2P		18		10																				
					3P		14		18																				
					4P		13		19																				
○=勝ち ●=負け					計		● 45		64																				

5 所 感

初日で終わりました。

出場した選手は9人です。負けている試合なのに相手に失礼な用兵はできないのでこれが限度です。2年生の中にコートでプレイすべき選手はいますが、失礼な用兵はできないに該当するから出せないのです。ウクライナやパレスチナほどではありませんが、スポーツの試合は戦場です。戦場に兵を送り出すのに機関銃を持たせて「お前死んでこい」はできません。これはスポーツの試合だけでなく選手たちがやがて社会に出て働くようになるとイヤでも実感しなければならぬ事実となって突きつけられます。それは、今感じておかなければ、今学んでおかなければ、社会に出てからでは遅すぎるのです。それを判って欲しいのですが、どんな話し方をしてもどんな指導をしても選手の表情や振る舞いから跳ね返ってくるのは他人事としか捉えていない空気感です。日本のこんな若者を見ると日本にも徴兵制を導入しなければならない日が来るのではないかとさえ思います。言っておきますが、私は太平洋戦争で最も犠牲になった年代の人間です。日本の軍部をいまだに憎んでいる人間です。その私がこんなことを言うのです。現実を見つめ直してください。

ユウナは試合開始前に私から叱られました。彼女は2日前に足首を捻挫したのです。その日は捻挫後の練習はさせませんでした。今日みんなに混じって練習しているので本人を呼んで「お前大丈夫なのか？」と聞きました。すると「ハイ」という返事が返ってきました。そこで私から叱られたのです。

「おれはお前の足のことを心配していたんだ。するとお前も先生は私の足の事を心配しているだろうと想像しなければならぬ。そしたら、先生2日前の捻挫はもう大丈夫ですと報告するのが自然の振る舞いだろう！」と。

これはユウナが気が利かないというはなしではなく、日本全国の若者がそうなってしまうというはなしなのです。それが冒頭の文言になって出てくるわけです。今こそ、日本国中のおとなたちが必死になって「日本の若者をなんとかしよう」と立ち上がらなければ日本は滅びるのではないかと危機感さえ私は覚えます。

文責：山崎